

学制百五十年に培われた日本の底力

京都産業大学名誉教授 所 功

日本は物的な資源の弱小国だが、人的な底力の強大国といえるかもしれない。その理由は教育制度が広く一般に行きわたっていることに起因する。日本では江戸時代から一般庶民への「読み書き算盤」の教育が広まっており、明治に入ると日本の教育力はさらに高まりを見せていった。

明治五年（一八七二）の八月一日（新暦九月四日）に大政官より「学制」が発令された。それに先立つ「学事奨励に關する仰せ出され書」の要点は、左の通りである。

「人々自ら……其の身を脩め知を開き才藝を長ずるは、学にあらずれば能はず。是れ学校の設けあるゆゑにして、日用常行の言語・書算を初め、士官・農商・百工・技藝・及び法律・政治・天文・医療などに至るまで……人よく其の才のあるところに応じ勉勵して之に従事……して後、初めて生を治め産を興し業を昌んにするを得べし。

されば学問は身を立つるの財本ともいふべきものにして、人たる者誰か学ばずして可ならんや……自今以後、一

般の人民 華士族。農工商及び女子、必ず邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめん事を期す。人の父兄たるもの、宜しく此の意を体認し其の愛育の情を厚くし、其の子弟をして必ず学に従事せしめざるべからざるものなり。」

「学制」で全国に設けられることになった小学校は、当初六歳から九歳までの「下等小学」において、習字・読本・修身・体術などを学ぶこと（史学大意などは十歳から十三歳までの「上等小学」にて）とされた。当初は家の事情や親の考え方で学校に行けない子供が少なからずいたが、十数年後に前者が「義務教育」とされるに至っている。

学制発布の直後から全国各地には小学校が建て始められた。私の郷里（岐阜県）では、江戸時代から多様な寺子屋や私塾があった。母校の揖斐川町立小島小学校も明治六年（一八七三）に二宮神社の私塾「秉義舎」（義は規範、秉は守る意）を基に創立され、まもなく村民の寄付金で立派な木造校舎が新築されている（同十一年の写真現存）。

開校当初の小学校は高い授業料を要したが、貧しくても子女を通学させる親は徐々に増えていく。さらに、明治三十三年（一九〇〇）に無償化されると、就学率が一挙に九〇%を越えている。これは修身教育などの向上も伴って、日本の底力を大いに高めた要因といえよう。

歴史研究 第703号
2022年8・9月号

本体価格800円＋税
2022年7月10日編集

発行所 戎光祥出版株式会社
東京都千代田区麹町1-7

電話 03-5275-3361
FAX 03-5275-3365

ひろきただのぶ 「広木忠信に学ぶ集い」のご案内

広木忠信（文蔵）は、江戸中期（元禄元年ころ）揖斐城下の三輪で生まれ、1730年この地で亡くなりました。その間、京都で山崎闇斎の学風を継ぐ若林強齋に学び、私塾「望楠軒」の塾頭を務め将来を期待されましたが、母上に孝養を尽くすため帰郷し医者をしてしながら学問に励んでいます。地元では、無名に近い人物ですが、師匠の祭文（弔辞）などによれば、実に志の高い心をもつ優しい人格者であったことが分かります。

そこで毎年、命日に近い休日に、長源寺で簡単に墓前祭を営んだ後、広木忠信をはじめ郷土（広く日本）の先賢に学ぶ集いを催しております。ぜひ、ご参集ください。

【日時】 9月24日（土） 13時～16時

【場所】 ①広木忠信（文蔵）墓前祭 13時～13時15分 長源寺（揖斐小学校の北奥に駐車場有）
・若林強齋作「広木忠信を祭る文」 朗読解説 元小学校長 後藤 章嘉 氏

②広木忠信に学ぶ集い 13時30分～16時 地域交流センター「はなもも」多目的室1
・講 話 *林万八著「古今心秘抄」 北方の歴史を語る会会員 栗田 昭行 氏
*「学制」の布告と揖斐地域の小学校 - 創建・発展 -
京都産業大学名誉教授 所 功 先生

新型コロナウイルス感染予防のため、定員を70名とさせていただきます。事前に下記の事務局まで電話にてお申込みください。

【主催・お申込み・お問い合わせ】 揖斐川町文化財保護協会 会長 高橋良樹
事務局 揖斐川歴史民俗資料館（TEL22-5373）